

洪水などの災害を考える時、その土地の高さを知ることが重要です。

寺田縄地域の土地の高さを知るには、いろいろな手立てがあります。例えば ① 「水準測量値」
② 平塚市が発行している「平塚都市計画基本図」 ③ パソコンで検索できる、国土地理院の「標高がわかるWeb地図」などがあげられます。

① 「水準測量値」(水準点)

○ 白く塗られた石柱、正面に水準点の文字、番号、管理者名が記されています。側面には標高とその数値が記されています。また、計測された年月日も併せて記されています。

寺田縄地域には、自治会館脇の「寺田縄公園・かっぱ公園」と、えのしろ公園南側にある「平塚市埋蔵文化財調査事務所」の2カ所に設置されています。探してください。すぐ見つかります。

◎ 寺田縄公園

◎ 平塚市埋蔵文化財調査事務所



(平成26年1月 8.506m)



(平成26年1月 10.274m)

◎ 寺田縄公園

公園敷地内の防災倉庫の西側に立てられています。

- ・ 水準点 NO 106 平塚市
- ・ 標高 八米五〇六
- ・ 平成 二十六年 一月

数値部分が白く塗られ、数字が記されています。測量値が変更されました。

◎ 平塚市埋蔵文化財調査事務所

えのしろ公園南側の道路を挟んだ事務所の金網フェンス内に立てられています。

- ・ 水準点 NO 108 平塚市
- ・ 標高 十 米 二 七 四
- ・ 平成 二 十 六 年 一 月

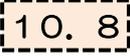
② 平塚市が発行している「平塚都市計画基本図」

- 平塚市役所で購入できます。
- 標高を標示しているポイントが、あまり多くありません。

③ パソコンで検索できる、国土地理院の「標高がわかるWeb地図」

- パソコンで容易に検索できます。
- 添付の地図に示した数値は、「Web地図」に基づいています。
- 寺田縄地域の道路の標高を示しています。
「Web地図」からは、宅地の標高も分かります。是非、自宅の標高を検索してください。

○ 高さを色分けしています。(単位はmを表しています)

	12mを越えている色 (13.0m 西側の飯島との境界にあたる所です)
	11m台の色 (11.4m 花菜ガーデンの信号機のある四つ角です)
	10m台の色 (10.8m 金田小学校の西側、入野との境界にあたる所です)
	9m台の色 (9.8m 北側の岡崎との境界にあたる所です)
	8m台の色 (8.0m 新幹線の南側、かつての寺田縄の本通りの所です)

○ 寺田縄地域の特徴を考えます。

- * 寺田縄地域の居住地の多くは  の8m台となっています。
- *  を囲うように、 の9m台となっています。
- *  の外側に  の10m台となっています。
- * 寺田縄地域の西側、飯島地域は  で寺田縄地域より、高い標高値となっています。

● 寺田縄地域は平坦な土地ではありません。土地には高低差があります。

- ① 寺田縄地域の居住地は8m台、その外側に9～11mと標高が高くなっています。
- ② 西側の飯島地域が、寺田縄地域の居住地より、標高が高くなっています。
 - ・ 西側の飯島地域に通じる道路(寺田縄飯島線)の標高差は、
 $14.0\text{m} - 8.3\text{m} = 5.7\text{m}$ となります。(2階の天井に相当します)

③ 北側の岡崎地区との境界部分が、寺田縄地域東部の居住地より、標高は高くなっています。

- 北側のキッズ保育園に通じる道路と東海道新幹線付近の標高差は、 $9.7\text{m} - 8.3\text{m} = 1.4\text{m}$ の差です。
- 東海道新幹線の南側は、 $8.0\text{m} = 1.7\text{m}$ の差となります。

● 寺田縄地域の地形的な特徴は、

西側に高く東側に低い。北側に高く南側の東海道新幹線付近に低い。と云えます。

● 防災の観点から寺田縄地域を考えると、

○ 「洪水ハザードマップ」によると、寺田縄地域は「浸水深、最大値3m」とあります。

○ 過去の洪水例

- 江戸時代の金目川の洪水は、記録によると平均して10年に1回、起こっていたとあります。金田地区の土地は、長い長い歴史を重ね、洪水が土砂を運搬し、堆積して作られました。
- 1938（昭和13）年 9月3日付 横浜貿易新報<現・夏南がW新聞> 「深さ一米の濁湖、4ヶ村水浸し」の記事見出しが報じられました。台風の上陸により、多くの河川の堤防が決壊し、洪水の被害を受けました。4ヶ村とは、金目、岡崎、豊田そして金田です。「見渡す限り水の中 金目川大氾濫」との見出しもあります。金田地区にとって大惨事でした。今から82年前の事です。

○ 堤防が決壊すると仮定すると・・・

平地に流れ込む水流はどの様に流れるでしょうか？

水は高い方から低い方に流れます。寺田縄地域の標高図を見てください。

* 西側の、飯島付近の金目川の堤防が決壊したと仮定すると
東側に位置する、東海道新幹線、鈴川の堤防方向に流れます。

* 北側のえのしろ付近の鈴川の堤防が決壊したと仮定すると
鈴川の堤防沿いを南に流れ、東海道新幹線の高架部を抜け、入野地域方向に向かいます。

- 決壊による洪水の水流の強さは分かりません。
- テレビで放映されるような水流になるのでしょうか？

○ 寺田縄地域付近で東海道新幹線の線路が高架方式となっている理由

「昭和36年、東海道新幹線としての工事が始まった。金田地区の最大の悩みは金目川の決壊、鈴川の溢れ水のために起こる水害である。線路の築堤で東西に分けられた寺田縄地区は二次災害を非常に恐れた。故に役員と国鉄との交渉の結果が現在のコンクリート高架である。その後、幸いなことに河川の改修などで大きな水害はなく今日に至ったのである。」

(わが住むさと -金田のあゆみ- : 二宮 匡氏より)

* 高架方式の要望は、築堤方式では金田地区が洪水に見舞われた時、築堤が控え土手のようになり、寺田縄地域に氾濫流が滞留することを防ぐ意味合いがあったと考えられます。

(参照 : 寺田縄HP 地域の災害を考える > (1) 寺田縄地域の標高値)

